

## 唐辛子の結果率に及ぼす袋掛の影響

二井内清之\*・難波宏之\*

NIUOHI, K. and NANBA, H. The Fruit Setting in Peppers.

## 緒 言

唐辛子の袋掛採種を行うと非常に結果率が低いように云われている。事実、行つてみると落花及び落果が非常に激しく認められる。しかし、唐辛子は自然状態に於ても相当落花、落果の激しいものであるから、袋掛によつて特に多くなるかどうかは疑問に思つた。又環境条件によつても落果は著しく影響されるから、袋掛の時期及び条件を検討する必要があると思つて、この実験を行つた。

## 実験方法

カリフォルニア・ワンダー、鷹の爪の2品種を用いた。夫々1月15日播種し、4月29日に24鉢づつに定植した。これ等は12株づつの袋掛区、無袋区に分け、更にこれを6株づつの灌水区、無灌水区分つた。別に圃場の各品種10本について開花数及び結果率を調査し、気温及び降水量と対比し乍ら考察に便な

らしめた。調査個体は途中で羅病の為、調査から除いたものもある。灌水区は毎日十分灌水を行い、無灌水区は萎凋が起りかけた時のみ枯れない程度に灌水を行つた。尤も鉢の上は無被であるから7月中旬までは雨の影響を受けて、必ずしも無灌水とは云えない。

鉢植区の調査は殆んど毎日開きかけた蕾に月日記入のラベルをつけ、袋掛区では別にバラフオン袋をかけた。そして旬別に結果率を調査した。

## 成績並びに考察

カリフォルニア・ワンダー及び鷹の爪の結果と袋掛との関係は夫々第1表、第2表の如くであつた。

第1表についてみると、地上部の発育が最も良好であつた灌水区と不良であつた無灌水区共に袋掛の有無は結果率に関係が無いことが判る。反つて灌水区では袋掛した方が結果率が総じて僅かではあるがよくなつていふように見える。

無灌水区に示されるように、乾燥によつて著しく結

第1表 カリフォルニアワンダーの結果と袋掛の関係

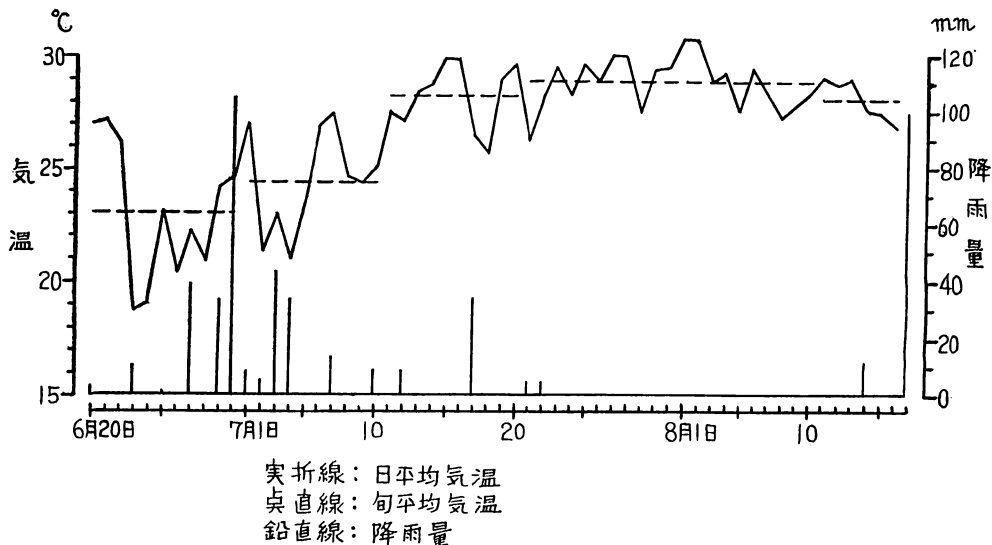
期 日	圃 場 (5本)		袋掛灌水 (6本)		袋掛無灌水 (6本)		無袋灌水 (6本)		無袋無灌水 (6本)	
	開花数	結果率 (%)	処理花数	結果率 (%)	処理花数	結果率 (%)	処理花数	結果率 (%)	処理花数	結果率 (%)
月日 月日										
6.20~6.30	112	39.2	116	54.6	87	40.2	87	52.9	91	48.4
7.1~7.10	129	52.7	101	62.7	111	49.5	141	59.6	114	49.3
7.11~7.20	96	53.7	69	62.2	89	43.5	110	61.8	99	44.4
7.21~7.31	88	38.6	34	54.8	29	34.5	39	46.2	26	34.6
8.1~8.10	40	37.5	—	—	—	—	—	—	—	—
8.11~8.16	28	35.7	—	—	—	—	—	—	—	—

第2表 鷹ノ爪の結果と袋掛の関係

期 日	圃 場 (7本)		袋掛灌水 (6本)		袋掛無灌水 (6本)		無袋灌水 (5本)		無袋無灌水 (5本)	
	開花数	結果率 (%)	処理花数	結果率 (%)	処理花数	結果率 (%)	処理花数	結果率 (%)	処理花数	結果率 (%)
月日 月日										
6.20~6.30	250	59.2	197	48.7	162	41.4	242	71.9	220	61.8
7.1~7.10	1120	66.9	202	59.4	200	58.0	249	86.7	251	64.9
7.11~7.20	2329	54.7	141	48.2	127	50.4	125	44.8	109	33.9
7.21~7.31	3403	45.1	83	33.7	80	35.0	65	32.3	45	40.0
8.1~8.10	2381	60.1	—	—	—	—	—	—	—	—
8.11~8.16	1065	51.4	—	—	—	—	—	—	—	—

\*九州農業試験場

第3図 平均気温及び降雨量



果率を減少する。この関係は圃場区にも明瞭に現われ、7月中旬迄は順調な結果状態であるが、7月下旬以後は著しく開花数、結果率は減少し、8月以後は最も甚だしい。第3図の気象図と対比すれば明瞭のように高温、乾燥の影響をうけ易いもので、鉢植と併せて、7月上中旬の気温 25°C 以下、土壌水分も比較的が多い時期に最も結果率が高いように見られる。従つて袋掛採種もこの時期を中心に行えば最も能率的であると思われる。

籠の爪では第2表に見られるように、7月中旬以降を除いて、袋掛区より無袋区が、土壌湿度の高低に係らず結果率が高い。特に発育のよい灌水区では20%以上の差を見ることが出来る。しかし、7月中旬以降になると一率に結果率は下つて各區間に差を認められない。又土壌湿度と結果率との関係はカルフォルニヤ・ワンダーのように顕著ではなく、袋掛区では灌水

区、無灌水区の方に差がなく、無袋区では7月中旬までは灌水区の方が高くなつてゐるが、総じて、乾燥には比較的強いと云える。この関係は圃場区についても見られ、7月下旬以降の高温乾燥時に、開花数、結果率共に高い数字を示している。

以上のことから袋掛は僅かに籠の爪には影響を見たが、COCHRANの示す如く、結果率は多種の条件により影響を受けるもので、比較的これ等の条件を充しうる7月中旬迄の結果率が最も高く、袋掛採種は甘、辛兩種を通じて、この時期に行うのが最もよいように考える。

## 引用文献

H. L. COCHRAN: Some factors influencing growth and fruit-setting in the pepper. N. Y. Cornell Agr. Exp. Sta Mem 190 (1936), 3~36.